人間文化創成科学論叢　第19巻　2016年

1889年パリ万国博覧会におけるベリーダンス
―「踊り子」と「場所」に注目して―

木　原　　悠*

Belly dance in the international exposition in Paris in 1889:
Focusing on the dancers and the venues

KIHARA Haruka

Abstract

The dance in the world fair is one of the most important shows for appealing to visiting people. Belly dance, which was displayed in the international exposition in Paris in 1889, it was also the most popular show. That's because while the body movements of belly dancing is strange and horrible for many Western people in the second half of the nineteenth century, on the other hand that is erotic and sensual. So this dance became an extraordinary attraction.

In the site of this international exposition in Paris, belly dance was performed by various levels of dancers from professional to amateur, especially the women who was performing belly dance in this exposition were called "almée". And this dance was presented in seven venues. These venues had great varieties, for example, an amphitheater, a café and a souk. This dance was expressed only as "belly dance", just simply, but actually there were various and different styles of the dancers and the venues in this exposition.

Keywords：belly dance, international exposition in Paris, dance, show, 1889

はじめに

ベリーダンス（belly dance）は現在、女性を中心に世界的な規模で実践されている舞踊の一種である。この踊りは腹部（belly）の筋肉を揺らしたりくねらせたりする動きに特徴をもつ。その起源はしばしば中東と北アフリカにあるとされてきたが[1]、決定的な史料が不足しているため未だ明らかにされていない。

ところで、本来は地域的な舞踊にすぎなかったベリーダンスが今日のように世界中に広まったのは、一体なぜだろうか。ベリーダンスの性格を理解するうえでこれは重要な観点である。通説では1893年のシカゴ万国博覧会［以下、万国博覧会は万博と略す］がその契機になったとされている[2]。なぜなら、この踊りは20世紀以降アメリカで発展してきたため、アメリカとベリーダンスの関係に注目が集まったからである。

しかし、実を言うと、シカゴ万博に４年先んじて行われたパリ万博（1889年）において、すでにベリーダンスは披露されていた[3]。それならば、パリ万博がこの踊りの展開の舞台となったとみるほうが自然ではないか。なぜなら、ここでの登場こそが、世界中の特産物・人種・文化の見本市という空間において、ベリーダンスがヨーロッパの人びとから熱い視線を浴び記録された最初の機会となったからである。さらに言えば、ベリーダンスの展開には欧米人やその価値観に影響された人々の中東・北アフリカに対する考え方が大きく影響しているのでは

キーワード：ベリーダンス、パリ万国博覧会、舞踊、見世物、1889年

＊平成28年度生　比較社会文化学専攻

ないか。このパリ万博でのベリーダンスの実態を考察すれば、今日みられるような世界的規模で実践される舞踊の一形態として確立していく要因も明らかになるのではないかと考える。

以上の点を考察する上での重要な第一段階として、本稿では、なぜパリ万博でベリーダンスが上演されたのか、また、それはどのように披露されたのかについて、「踊り子」と「場所」に焦点を当てて検討する。なお、本稿では先行研究に倣い'belly dance（英）'と'la danse du ventre（仏）'は同じであるとし、ともに「ベリーダンス」と訳出する。

１．1889年パリ万博におけるベリーダンス

１－１．1889年パリ万博

1851年にロンドンで初開催を迎えて以来、通算４回目にあたる1889年のパリ万博は19世紀後半に集中して行われた一連の万博の中で最も「成功」したうちの一つと言われている[4]。特に西欧列強によって世界が「発見」され、近代世界が形成されていく過程において、万有のものを一堂に集めて展示する万博はまさに近代の「夢」が体現された場でもあった[5]。

万博は国民の教化・啓蒙の面をもつ。これは大航海時代を経て創成された博物学や競技会が開催されたフランス内国博覧会などの知的活動の結実と言える。1851年の第１回ロンドン万博ではこの教育的意義が大々的に掲げられ、国を挙げて万博への動員が図られた。かくて、ロンドン万博は結果的に多数の来場者を集めるに至ったのである。

しかし、パリ万博は、ロンドン万博にはみられない重要な一面をもっている。それは、大衆娯楽の場としての役割である。これは中世ヨーロッパの定期市に起源をもち、祝祭的な性格とあいまって大衆を惹きつける重要な要素であった。それは特に1867年の第２回パリ万博以降、顕著になっていく。なぜなら、万博本来の役割である国民の教化・啓蒙に加えて大衆娯楽の側面を強調し話題性を示すことで入場者数を確保することが目的とされたからである。また、第３回パリ万博（1878年）における大幅な赤字がこの傾向を後押しした。

また、1889年という年に注目してみれば、これがフランス革命百周年にあたり、世界的規模のイベントとしての万博の「成功」には、共和政の安定と繁栄の誇示を主眼においた国家的な威信がかかっていたことは容易に推測しうる。この流れをくんだ1889年パリ万博は、最も娯楽性の高まる万博になった[6]。この政治的・社会的背景をあわせて考えれば、1889年パリ万博で大衆娯楽の性格が前面にうち出されたのは明白である[7]。

１－２．パリ万博における舞踊

1867年のパリでの開催以降、万博にはフランスの植民地をはじめ多くの国や地域が参加した。参加国および地域は万博会場内に独自のパビリオンを建設していく。かくして会場内には世界各地の建造物やモニュメントが林立する空間ができあがったのである。各国のパビリオンはその国独自の伝統工芸品を展示販売し、レストランやカフェを設けて食文化も楽しめるようにした。これら展示物のなかで、舞踊もまた人気を集めた。

娯楽性を帯びた1889年パリ万博では、「ニグロの踊りのほとんどは、一定のリズムに合わせて、楽器の一つを使った踊りが行われている。アラブの踊りやスペインの踊りなどでも同様である。北アメリカのインディアンの踊りでも同じことが行われている」[8]と評されたほど多様な舞踊が披露された。舞踊は各国や地域の特色を反映する文化として、いわば各パビリオンにおける重要な演出としての役割を果たしたのである。

また、1867年に誕生した万博パビリオンの空間は参加国にとって自国をアピールする場となった[9]。したがって、パビリオンの場で披露されていた舞踊も参加国の重要な広告手段であった。そもそも、それぞれの文化がアピールの手段となりえるのは、それが独自性を有するからである。この独自性は、万博のように一堂に多数の国が集結する場においては、自国を宣伝するための重要な要素である。これが人目を惹き、話題性へとつながるのである。このように、世間を賑わすことが万博参加国にとって「成功」の鍵を握っているのだ。

人間にとって世界中の珍しいものを眺めることは大きな喜びである。だが、19世紀後半、世界旅行ができるのはほんの一握りの人間に限られていた。したがって、様々な国や地域のパビリオンが林立する万博とは、まさに居ながらにして世界旅行を愉しめる空間となったのである。ここで異国情緒をかきたてる演出に人気が集まった

のは当然だった。こうして、珍品・珍芸に対する大衆の欲求は万博において「見世物」を生みだすことにつながるのである[10]。

この場において、舞踊は格好の見世物として人びとを惹きつけた。「生身」の人間によって観覧者の身体レベルに訴えかける展示物の舞踊は、従来の活字メディアが有した限界を超え、非常に具体性をもって提示されるのである[11]。同時に、異国的側面の強調されたパビリオンで行われる物珍しさが舞踊の娯楽的要素を助長した。その結果、舞踊は1889年パリ万博以降、万博に必須の演出要素として位置づけられたと考える。

１－３．なぜパリ万博でベリーダンスがみられたのか

パビリオンで披露されたベリーダンスは実際に大きな話題を呼んだ。見物人の反応からその要因を探ってみよう。

まず、今まで見たことのない腹部の動きに対して注目が集まった。観客は一様に「奇妙だ」という反応を示した。これについては「あの踊り子は、ゴムを食べたのではないか？ だからあんなに不気味な動きをしているのだろう[12]」「褐色の太った女性は、てんかんのようなねじれの動きをしている[13]」などの記事からうかがえる。また、この身体的な動きが卑猥ととらえられて、踊り子が売春婦と同一視されもした。それは、例えばベリーダンスが「高級娼婦の踊り[14]」と表現されたり、踊りが披露されていた空間が「売春が行われている[15]」と言われたりしたことから明らかである。

そのうえ、より娯楽化された空間においてもこの踊りは披露されていた。つまり、ありえないシチュエーションでベリーダンスは披露されたのである[16]。これは、注目度を高めて集客をねらう戦略の一環だと考えられる。これらの演出がベリーダンス「ブーム」を生みだしたのであった。

万博当時、パリ女性は一般的にコルセットを装着した服装をしていた。コルセットの締めつけによるウエストのくびれが美とされた社会通念からすれば、豊かな腹部を振動させるベリーダンスの動きは驚異の的となり、よほど大きなインパクトを与えたにちがいない。また、同じ空間で種類の違う踊りが見られるために、そこは十分なスペクタクル空間となる。こうしてベリーダンスは一大センセーションを巻きおこした。

２．1889年パリ万国博覧会のベリーダンスの実態

２－１．ベリーダンスの踊り子「アルメ（almée）」について

前章では、パリ万博でベリーダンスが実演され注目を集めた理由を考察したが、本章ではその実態として、ベリーダンスの実演者である「踊り子（アルメ）」と、実演された「場所」について検討する。

当時の雑誌に「ベリーダンスをする女性―アルメのアーイシャ[17]」に関する記事が掲載されている【図１】。「アルメ」はベリーダンスの踊り子を指す名称だった。では、この「アルメ」は一体どのような意味と役割をもっていたのか。

そもそも、「アルメ」の原義は「教養のある女性」を表すアラビア語に由来し、18世紀頃からエジプトを訪れたヨーロッパ人によって記録された言葉である[18]。「アルメ(almeh)」は本来エジプトにおいて歌手を意味したが、そのうちの下層階級のものはしばしば踊り子としての役割も兼ねていた。このため、「踊り子」の意味も含まれるようになった[19]。つまり、「アルメ」は歌手に対しても、また、時には踊り子に対しても使われた名称であった。

しかし、このパリ万博において「アルメ」の意味は踊り子のみに限定されている。さらにいえば「ベリーダンスをする

【図１】アルメのアーイシャ
（*Le Monde illustré*, 3 août 1889, p.73より引用）
〈Source gallica.bnf.fr /Bibliothèque nationale de France〉

踊り子」である。それは、「アルメ」の背後には楽団が控えており、「アルメ」が歌手としての役割を担うことはなかったからである。つまり、エジプトで用いられていた歌手や踊り子を指す「アルメ」の意味はこの万博で限定的になり、「ベリーダンスの踊り子」の呼称のみに用いられていたことが示唆される。

したがって、パリ万博においてベリーダンスはしばしば「アルメの踊り」とも呼ばれていた。結果的にこの踊りは万博内のモロッコ、アルジェリア、チュニジアなどのエジプト以外のパビリオンでもみることができた[20]。

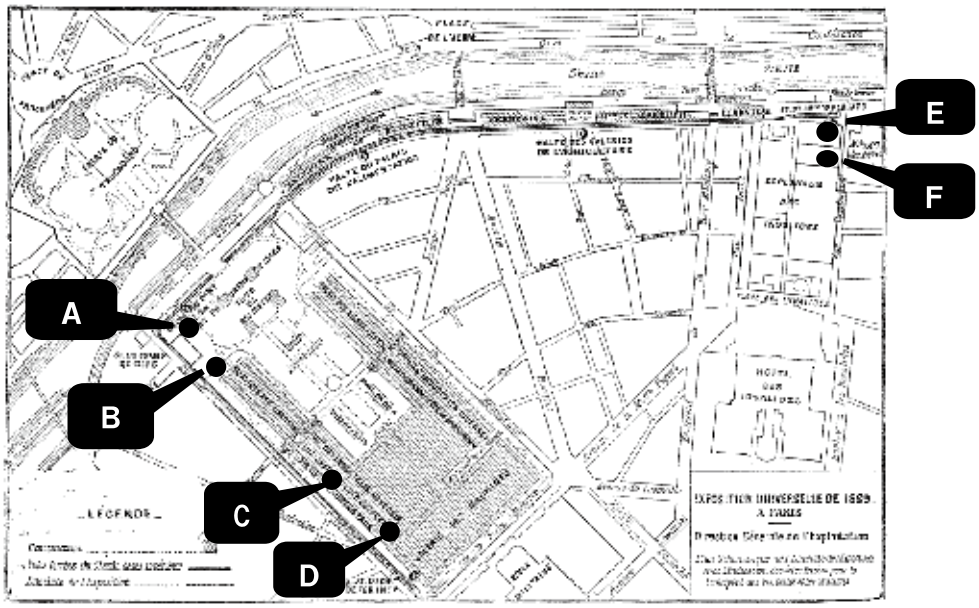
２－２．ベリーダンスが披露された場所

ベリーダンスは「チュニジアのカフェのベリーダンス、アルジェリアのカフェのベリーダンス、エジプトのショーのベリーダンス…この万博にお腹はたくさんある！〔強調、原典筆記者〕[21]」と言われるほど様々な地点でみることができた。

このことは同万博内で披露されていた他の舞踊と比較しても特異である。例えば、同じく人気のあったジャワ舞踊に関して言えば、一軒の芝居小屋だけで連日舞踊と音楽が披露されていた[22]。それは「ジャワ村」におけるジャワの見世物だったからである。このように舞踊は各展示区画のなかで見られることが一般的であった。ゆえに、会場の複数の場所で同時並行的に披露されていたことはベリーダンスのみにみられる特徴である。

では、本万博におけるベリーダンスの実態を理解するにあたり、実際に会場のどこで披露されていたかを検討してみよう。そこで、史料をもとに上演場所を明らかにするとともに、それぞれの会場の特徴を列挙した[23]。その結果は【図２】および【表１】（次頁）のとおりである。

【図２】1889年パリ万国博覧会の会場図[24]とベリーダンスが披露された場所　（論者作成）



【図２】や【表１】が示すように、ベリーダンスが様々な場所で披露されていたことは、単純に会場の数が多かった事実を示すにとどまらない。実際のところ、７か所でこの踊りが演じられたが、これらの会場の様式はいずれも異なっている。すなわち、おおまかに言えば、万博主会場のシャン・ド・マルスと植民地パビリオンが林立するアンヴァリッドの２か所に会場が設けられていた。

主会場と植民地パビリオンは、異なったジャンルの展示をしていた。単純に言えば、前者が人類の「先進性」を展示していたのに対して、後者は「後進性」を展示した。また、別の見方によれば、中央の劇場（主会場）と参加国パビリオン内に設置された場の違いとも言える。これは、一緒に他ジャンルのパフォーマンスも観賞できる劇場での踊りと、参加国による文化展示の一環としての踊りという差異につながる。

また、各会場のつくりも、劇場からスーク[25]にいたるまで様々だった。収容力をもつ劇場の場合、入場料は高く設定されたが、それに見合う質のショーが提供された。ここではプロによるパフォーマンスが90分行われたの

【表１】1889年パリ万博でベリーダンスが披露された場所と分類　（論者作成）

		A	B	C		D	E	F	
名称		国際劇場	万博大劇場	モロッコのコンサート		エジプトのカフェ	アルジェリアのカフェ	チュニジアのコンサート	
				１階	２階				
				カフェ　ギャラリー				カフェ	スーク
場所		シャン・ド・マルス（1889年パリ万博の主会場）					アンヴァリッド（フランス植民地パビリオンが林立）		
				参加国のパビリオン内の一部					
建物	外観			・マグリブの伝統的な白色の壁 ・１階はカフェとギャラリーが併設、２階はテント作りのダンスホール		・モスクのつくり ・正面にはムシュラビア（アラブの伝統的な窓）がついている	・白い漆喰のつくり	・白い漆喰のつくり	
	内装	アンフィシアター（円形劇場）	アンフィシアター（円形劇場）	・壁にタペストリーがかけられている ・舞台の背後に大きな鏡がある	・壁かけの装飾	・ランプやカーペットの装飾 ・舞台は木製の演壇			
主宰者		セムール（英人）	レオン・サリ（仏人）			ドロール・ド・グレオン（仏人）			
収容人数		2,500人	1,000人	50人		200人			
形態		劇場内での飲食・喫煙可		カフェ・コンセール（ショーを提供するカフェ）					市場
入場料		・円形劇場：５フラン ・舞台入口：２フラン ・舞台周囲：１フラン		１フラン		１フラン			
頻度		１日２回		１か月に数回					
時間		１回90分（15：00-16：30, 20：00-21：30）				１回20分弱			
他の演目	舞踊		・スペインの踊り	・アルジェリアの踊り ・チュルケスの踊り		・コールドファンの踊り ・剣の踊り	・ムーアの踊り ・オウル・ナイルの踊り ・カビリーの踊り ・ネグロの踊り		
	他	・マジック ・30人の男性コーラスによる様々な国歌の合唱	・人形劇 ・オペラ・コミック	・大道芸		・サルの曲芸 ・ヘビ使いの妙技	・大道芸		
踊り子	属性	カイロ・オペラハウスのパフォーマンス集団	アルメ						
	個人名	・コーク・エッフェンディ ・アミナ・エッフェンディ ・ラティーファ ・サリーム ・ファリーダ・エッフェンディ	・レイチェル・ビント・エニィ（通称：ベル・ファティマ） ※６月初旬のみ	・レイチェル・ビント・エニィ（通称：ベル・ファティマ）	・バーヤ・ビント・エニィ（通称：ベル・ゾーラ）	・アーイシャ ・ファティマ ・アディーラ ・ファディーラ ・ムハンマド・ハーネム ・カドーラ		・アドーラ ・ソフィア ・サイーダ	

である。他方、カフェやスークの場合、会場はあくまで併設された舞台である。ショーを演じるために設けられた専用の舞台ではなく、簡易な作りの演壇である。したがって、一回の上演時間も比較的短い。それに、各会場はベリーダンス専用の場であったわけではない。そこでは別のパフォーマンスも行われた。つまり、ベリーダンスは一連のショーに組み込まれた演目の一つにすぎなかったのである。

では、劇場または仮設舞台でベリーダンスの他にどんなパフォーマンスが演じられたのであろうか。

まず、劇場タイプの会場ではマジックや人形劇など舞踊以外の娯楽的な演目が用意されていた。つまり、ベリーダンスはエンターテインメントの一部を成していた。

一方、カフェやスークの会場ではベリーダンス以外に諸部族の踊りが披露された。これらは各国のパビリオン内に設置された会場であったため、当然といえば当然のことであった。ベリーダンスがここで演じられたと言うことは、この踊りが民族的な踊りと位置づけられていたことを意味する。

以上をまとめると、ベリーダンスは観客を堪能させる娯楽性とともに「民族性」あるいは「地域性」を有していたのである。

そして、披露の場の多様性は踊り子の多層性を反映している。踊り子のなかには前述の「アルメ」のみならず「カイロ・オペラハウスのパフォーマンス集団」に属するものもいた。彼女たちはカイロにあるオペラハウスの踊り子たちで、この万博ではプロとして質の高いショーを提供していた。【表１】に記載された5名の踊り子たち

が実際にベリーダンスを披露していたことが記録されている。

踊り子のなかには複数の場所で踊りを披露するものもいた。例えば、通称「ベル・ファティマ」の名で知られた女性は万博が開催された６月初旬までは万博大劇場でベリーダンスを演じていた。しかし、それ以降はモロッコのカフェに移動してパフォーマンスを続けている。

おわりに

本稿は元来、中東と北アフリカの踊りと見なされてきたベリーダンスが今日のように世界中で実践されるようになった点に着眼し、通説のシカゴ万博ではなくパリ万博をその嚆矢とみて考察をすすめた。具体的にはそこでベリーダンスが披露された背景とその実態を明らかにすることを目的に掲げ、以下の結論を得た。

フランス革命百周年と、前回万博における赤字という不名誉の挽回をめざして行われた1889年のパリ万博では、本来の国民の教化・啓蒙の性格よりも娯楽的性格が押し出された。生身の人間が行うパフォーマンスである舞踊は、それ自体が恰好の見世物だった。とりわけ、ヨーロッパの人々にとって異国の女性が腹部をリズミカルに動かすベリーダンスは、見物人の眼に衝撃的な印象を放ち、世の人の興味関心を集めるための話題性は十分であった。これらの政治的・社会的背景のもとに行われた万博の趣旨が、ベリーダンスの登場に関与し、結果的にこの踊りが大ヒットをおさめた一要因ではないだろうか。

その人気ぶりは、それが複数の会場（７か所）で興じられた事実が物語る。ベリーダンスの踊り子「アルメ」は主会場の大劇場でもパビリオン内のカフェ・コンセールでも踊った。これら会場の性質が一様でないことから、この踊りはショーの構成要素であると同時に当時の欧米の人々がイメージする「中東・北アフリカ地域」やその各民族の文化展示機能の一端を担っていたことが明らかである。ここから、ベリーダンスの公演は本質的な一地域の踊りの紹介という枠を外れ、新たな性格を帯びるに至った。これは、本万博終了後パリ界隈にフィールドを移し、より露骨なショービジネスに取り込まれることを予期させる[26]。つまり、パリ万博での公演は、現在みられるような世界的規模の舞踊としてのベリーダンスの揺籃期と位置づけることができるだろう。

本稿では、「踊り子」と「場所」の観点からこの踊りの様相をみてきた。ここから、大衆娯楽の実演の場としてパリ万博の中にベリーダンスが一定の貢献を果たした点についてある程度は検証できたと思う。

今後の課題としては、一方で舞踊学的観点から、当時披露されたベリーダンスの身体的な動きや音楽的要素を分析し具体的に明らかにすること、他方でこの踊りが実演された背景について、その社会的潮流、とりわけ後に宗主国となるフランスとその植民地マグリブとの関係性に注目して検討することである。こうして複数の切り口から1889年パリ万博のベリーダンスを捉えることで、より立体的にその様相を描きだすことができるのではないかと考える。

【註】

1　Wendy, Bounaventura. *Serpent of the Nile*. London, Saqi, 1994, p.9. なお、「中東」は国際政治上の概念で、東はアフガニスタン、イランから西はモロッコまで、北はトルコ共和国から南はアラビア半島全域、スーダン、大サハラ地域までを包括する地域をさす［板垣雄三「中東」（日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『新イスラム事典』東京、平凡社、2002年、339-340頁）］。しかし、本稿ではヴォナベントラの表記Middle East and North Africaにならい「中東と北アフリカ」と訳出した。

2　Donna, Carlton. *Looking for Little Egypt*. Indiana, Intl Dance Discovery, 1995.; 関口義人『ベリーダンスの官能　ダンサー33人の軌跡と証言』東京、青土社、2012年、216頁。また、近年では1876年のフィラデルフィア万博においてベリーダンスが披露されたとする説もある。

3　Zeynep, Çelik. *Displaying the Orient: Architecture of Islam at Nineteenth Century World's Fairs*. Berkeley-Los-Angeles-Oxford, University of California Press, 1992, p.24.; Anne, Décoret-Ahiha. *Les danses exotiques en France: 1880–1940*. Paris, Centre national de la danse, 2004, p.28.; Annegret, Fauser. *Musical Encounters at the 1889 Paris World's Fair*. Rochester, University of Rochester Press, 2005, p.221.; Rhonda, Garelick. *Electric Salome*. New Jersey, Princeton University Press, 2007, p.69.

4　パスカル・オリイ（渡辺和行訳）「フランス革命100年祭」217頁［ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場２　統合』東京、岩波書店、2003年、195-233頁］。

5　鹿島茂『パリ五段活用』東京、中央公論社、1998年、78頁。

6　吉見俊哉『博覧会の政治学』東京、講談社学術文庫、2010年、267頁。

7　初回から第４回目にいたるまで、パリ万博の入場者数の推移は520万人（1855年）、680万人（1867年）、1,600万人（1878年）、3,240万人（1889年）。ここからも1889年パリ万博の「成功」がうかがえる。

8　*Le Ménestrel*, 6 octobre 1889, p.315.

9　鹿島茂『絶景、パリ万国博覧会』東京、河出書房新社、1992年、262頁。

10　葛西周「博覧会の舞踊にみる近代日本の植民地主義」（『東洋音楽研究』第73巻、2008年、21-40頁）29頁。

11　松田京子『帝国の視線―博覧会と異文化表象』東京、吉川弘文館、2003年、8-9頁。

12　*Le Figaro*, 10 juillet 1889, p. 1.

13　*Le Gaulois*, 1 août 1889, 1.

14　*Le Gaulois*, 1 juillet 1889, 2.

15　*La Caricature*, 6 juillet 1889, p.210.

16　エジプトのカフェではベリーダンスとともにイスラーム神秘主義者らによる旋回舞踊が上演されていた。これを見たエジプトの知識人は「本来エジプトではこうした場で見られるものではない」として、この空間が「パリ化」していることを明らかにしている（Muḥammad Amīn, Fikrī. *Iršād al-Alibbā'ilà maḥāsin Ūrūbbā. Cairo*, Maṭba'at al-Muqtaṭaf, 1892, p.248）。

17　*Le Ménestrel*, 5 septembre 1889, p.293.

18　Kathleen, Fraser. *Before they were belly dancers*, North Carolina, McFarland& Company, 2015, p.260.

19　ウイリアム・レイン（大場正史訳）『エジプトの生活』東京、桃源社、1964年、232頁。

20　「アルメの踊り」と題された記事には「アルジェリアのショーとアラブのショー、ここではベリーダンスが熱狂的に開催されている（*Le Monde illustré*, 3 août 1889, p.67）」とある。

21　*Le Temps*, 11 juille 1890, 2.

22　安田香「1889年パリ万国博覧会におけるジャワの舞踊と音楽について」508頁（『東南アジア研究』36巻４号、1999年、505-524頁）。

23　本稿において用いる史料を選定・分類するにあたり主に参照した先行研究は次のとおり。Annegret, Fauser. *Musical Encounters at the 1889 Paris World's Fair*. Rochester, University of Rochester Press, 2005.; 井上さつき『音楽を展示する』東京、法政大学出版局、2009年.; Cristiana, Baldazzi. "The Arabs in the Mirror: Stories and Travel Diaries relating to the Universal Expositions in Paris (1867, 1889, 1900)", Abbattista, Guido, ed. *Moving Bodies, Displaying Nations National Cultures, Race and Gender in World Expositions Nineteenth to Twenty-first Century*. Trieste, EUT Edizioni Università di Trieste, 2014, pp.213-239.

24　*Les merveilles de l'exposition de 1889 : Histoire. Construction. Inauguration. Description détaillée des palais, des annexes et des parcs. Les chefs-d'oeuvre de l'art de tous les pays. Les machines. Les arts industriels. Les produits manufacturés. Les expositions spéciales. La tour Eiffel. Ouvrage rédigé par des écrivains spéciaux et des ingénieurs illustré de vues d'ensemble et de détail, de scènes, de reproductions d'objets exposés, etc*, Paris, Librairie illustrée, 1889, p.91より引用〈Source Cnum - Conservatoire numérique des Arts et Métiers - http://cnum.cnam.fr〉。

25　「市」を表すアラビア語。日本では慣用でバザールという［坂本勉「市」（日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『新イスラム事典』東京、平凡社、2002年、111-114頁）］。

26　ルイ・シュヴァリエ（河盛好蔵訳）『歓楽と犯罪のモンマルトル』東京、文芸春秋社、1986年、250頁; 鹿島茂『パリ・世紀末パノラマ館』東京、角川春樹事務所、1996年、90-91頁。

【史料・参考文献一覧】

レイン, ウイリアム（大場正史訳）『エジプトの生活』東京、桃源社、1964年.

Le Caricature

L'Exposition universelle internationale de 1889, Catalogue général officiel, Exposition rétrospective du travail et des sciences anthropologiques. 5 vols, Lille, Impr. L. Danel, 1889.

Le Figaro

Le Gaulois

Le Ménestrel

Le Monde illustré

Le Petit Parisien

Le Temps

Les merveilles de l'exposition de 1889 : Histoire. Construction. Inauguration. Description détaillée des palais, des annexes et des parcs. Les

chefs-d'oeuvre de l'art de tous les pays. Les machines. Les arts industriels. Les produits manufacturés. Les expositions spéciales. La tour Eiffel. Ouvrage rédigé par des écrivains spéciaux et des ingénieurs illustré de vues d'ensemble et de détail, de scènes, de reproductions d'objets exposés, etc. Paris, Librairie illustrée, 1889.

Monod, Émile, ed. *L'Exposition Universelle de 1889 : Grand ouvrage illustré historique, encyclopédique, descriptif publié sous le patronage de M. Le Ministre du Commerce, de l'Industrie et des Colonies.* 3vols. Paris, E. Dentu, 1890.

Pougin, Arthur. *Le Théâtre à l'Exposition Universelle de 1889 : Notes et descriptions, histoires et souvenirs.* Paris, Librarie Fischbacher, 1890.

Fikrī, Muḥammad Amīn. *Iršād al-Alibbā' ilà maḥāsin Ūrūbbā,* Cairo, Maṭba'at al-Muqtaṭaf, 1892.

市川文彦「近代パリ万物博の軌跡　1855-1900」(佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』京都、思文閣出版、2015年、533-560頁).

井上さつき『音楽を展示する』東京、法政大学出版局、2009年.

オリイ，パスカル（渡辺和行訳）「フランス革命100年祭」[ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場２　統合』東京、岩波書店、2003年、195-233頁].

葛西周「博覧会の舞踊にみる近代日本の植民地主義」(『東洋音楽研究』第73巻、2008年、21-40頁).

鹿島茂『絶景、パリ万国博覧会』東京、河出書房新社、1992年.

鹿島茂『パリ・世紀末パノラマ館』東京、角川春樹事務所、1996年.

鹿島茂『パリ五段活用』東京、中央公論社、1998年.

関口義人『ベリーダンスの官能　ダンサー33人の軌跡と証言』東京、青土社、2012年.

日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『新イスラム事典』東京、平凡社、2002年.

松田京子『帝国の視線―博覧会と異文化表象』東京、吉川弘文館、2003年.

安田香「1889年パリ万国博覧会におけるジャワの舞踊と音楽について」(『東南アジア研究』36巻４号、1999年、505-524頁).

吉田光邦編『図説万国博覧会史1851-1942』京都、思文閣出版、1985年.

吉見俊哉『博覧会の政治学』東京、講談社学術文庫、2010年.

シュヴァリエ, ルイ（河盛好蔵訳）『歓楽と犯罪のモンマルトル』東京、文芸春秋社、1986年.

ウィリアムズ, ロザリンド（吉田典子・田村真理訳）『夢の消費革命』東京、工作舎、1996年.

Baldazzi, Cristiana. "The Arabs in the Mirror: Stories and Travel Diaries relating to the Universal Expositions in Paris (1867, 1889, 1900)", Abbattista, Guido, ed. *Moving Bodies, Displaying Nations National Cultures, Race and Gender in World Expositions Nineteenth to Twenty-first Century.* Trieste, EUT Edizioni Università di Trieste, 2014, pp.213-239.

Fauser, Annegret. *Musical Encounters at the 1889 Paris World's Fair.* Rochester, University of Rochester Press, 2005.

Bounaventura, Wendy. *Serpent of the Nile.* London, Saqi, 1994.

Carlton, Donna. *Looking for Little Egypt.* Indiana, Intl Dance Discovery, 1995.

Décoret- Ahiha, Anne. *Les danses exotiques en France: 1880-1940.* Paris, Centre national de la danse, 2004.

Fraser, Kathleen. *Before they were belly dancers.* North Carolina, McFarland& Company, 2015.

Garelick, Rhonda. *Electric Salome.* New Jersey, Princeton University Press, 2007.

Greenhalgh, Poul. *Ephemeral vistas.* Manchester, Manchester University Press, 1988.

Çelik, Zeynep. *Displaying the Orient: Architecture of Islam at Nineteenth CenturyWorld's Fairs.* Berkeley-Los Angeles-Oxford, University of California Press, 1992.

Çelik, Zeynep. and Kinney, Leila. "Ethnography and Exhibitionism at the Expositions Universelles". Burke, Edmund, and Prochaska, David, ed. *Genealogies of Orientalism.* Nebraska, University of Nebraska Press, 2008, pp.286-329.